

自然環境科 施設紹介

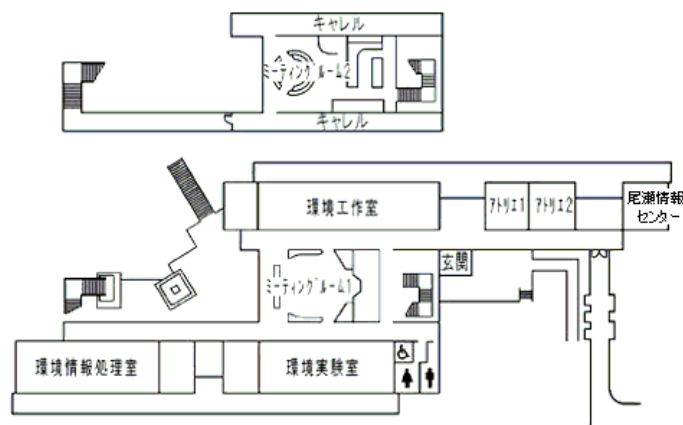
自然環境棟

「木造」と「新しい教育空間」という発想の中から設計された施設である。恵まれた美しい環境の中に「土」「光」「風」と地域の風土・文化・産業のつながりが考慮され、従来の40人一斉授業をグループ学習・共同研究・課題学習中心にし、教卓・教壇・黒板は設置されていない。高さ約12m、幅約80m、奥行き約15mの二階建てである。屋根はゴムアサファルトが主の茶色の瓦葺きで、外壁は唐松貼りに木材保護染料として珪藻土で仕上げている。また防球ネット・採光・積雪を考慮し「雁木」が設置されている。

なお、自然環境科だけでなく、他の教科活動や総合的な学習の時間、特別活動などでも利用されているほか、対外行事など幅広く利用されている。



自然環境棟 外観



自然環境棟 図面

ミーティングルーム1

全体指導が必要な時、生徒はここに集まり、教員による指導や生徒同士のディスカッション、グループごとの学習成果発表、交流等が行われる。プロジェクタやノートパソコン、ブルーレイディスクレコーダーなどのICT機器が用意されているため、ICT機器を活用した授業展開も可能である。

あたたかみがあり、落ち着いた雰囲気醸し出す暖炉もある。



ミーティングルーム2

環境を中心とした専門図書や各種図鑑、資料、標本、はく製等を置き、落ち着いた雰囲気の中で、それぞれの課題に必要な調査や研究、まとめなど学習活動が行われる。両側にキャレルと呼ばれる自学自習のスペースがあり、授業中ではレポート作成等の個別学習に利用され、また放課後は自主学習の場としても活用される。



環境工作室

大きな作業机が6つ設置されており、それらの机を中心にイスが8つずつ並べられている。グループワークを展開する上でこの教室が多用されている。また、作図、作画、各種工作物の作成も行われる。教室の後方には実習に必要な機材や工作に必要な工具類が置いてある。また、実物投影機とプロジェクターが3台用意されている。

環境実験室

水質測定や土壌分析、大気測定など環境にかかわる実験や計測、分析等の記録処理などが行われる。この教室にはそれぞれ実験に必要な装置や器具、光学顕微鏡や実体顕微鏡などが配置してある。ガスバーナーなどは僅かしか備え付けられておらず、従来の理科的な実験は本校舎の生物化学室で行われる。



環境情報処理室

ノートパソコンが41台が設置され、表計算ソフトや画像処理ソフト、プレゼンテーションソフト、ブラウザソフトなどを用いてあらゆるデータの処理、また調査や研究のまとめ、情報の収集が行われる。野外実習などで得られたデータの分析や必要なデータの取り出しなども行われる。

また、校内に設置された気象観測装置の情報もここで得ることができる。自然環境科3年次に履修する「課題研究」でのデータ処理や論文作成もここで行われる。



アトリエ1、2

少人数による科目指導や習熟度に応じた指導、生徒による自主学習やグループによる調査、研究、話し合い等が行われる。様々な学習形態に対応できるよう、2人掛けのテーブルが用意されており、机の配置を自由に変えることができる。この教室はしきりを開いて、一つの教室としても利用が可能である。

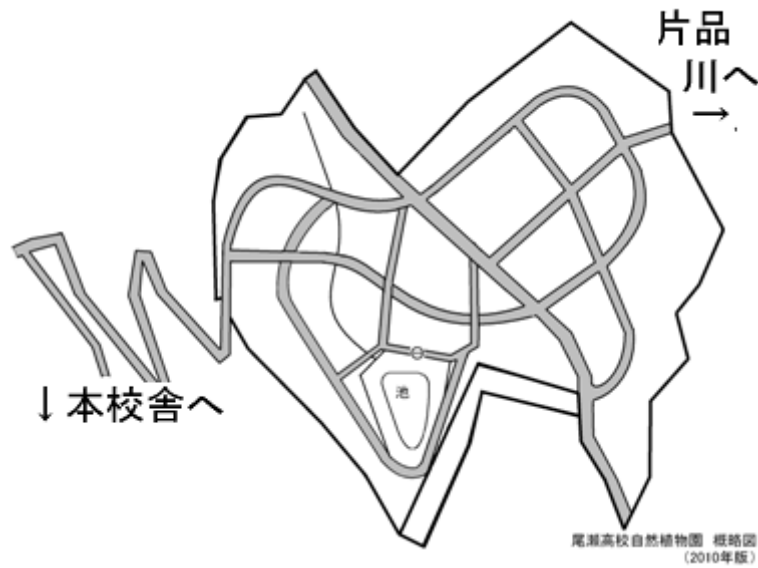
尾瀬情報センター

自然環境棟の一角にあり、尾瀬やそれを取り巻く自然環境のデータやその保護に関する情報を収集し、分析・処理することにより、地元住民を始め多くの方々の尾瀬や自然環境に対する愛し方と保護意識を高めると共に、尾瀬高校の充実と発展に役立つ目的で設置されました。

※Web ページはこちら→ [尾瀬情報センターHP](#)

自然植物園

自然環境棟の北面に隣接しており、面積約 6,000 m²。尾瀬を模した小湿地帯があり木道も敷設してある。いつでも身近に調査や観察ができるよう、必要に応じ授業で活用している。自然環境調査、除草作業、木道管理作業など、自然環境科の生徒により随時、実態の収集や整備が行われている。



春



夏



秋



冬